

学園生活に対する学生の満足度に影響する要因： 2011年度常葉学園短期大学学生生活実態調査の分析

仲戸川智隆・大場博幸・遠藤知里・一言哲也・井上幸子・戸田克司

概要

毎年本学で行われている学生生活調査を2011年度に改訂し、在学生の本学に対する総合的な満足度に対して、授業や施設・人間関係などの要因がどの程度影響しているのかを統計的に分析できるよう設計した。この調査を、本学の在学生683人に対して2012年2月と3月に行った。総合的な満足度を従属変数として重回帰分析をした結果、第一に授業との相関が3割弱、第二に学外生活や友人関係との相関がそれぞれ2割強、第三に施設が1割強相関していることがわかった。学科別にみると、日文科では授業との相関、英文科では友人関係との相関、音楽科では学外生活との相関、保育科では学年との相関が特徴的であった。概して、各項目の満足度は高く、また相関を持つ項目は改善することが難しい。むしろ、「在学生の満足度が高いにも関わらず三科で定員割れが起こっている原因」に対処することが、学校運営上適切である。

1. はじめに
 2. 調査の概要
 3. 総合的な満足度に影響する要因
 - 3.1. 項目別満足度の平均値
 - 3.2. 総合的な満足度と関連する要因のスクリーニング
 4. 学科・学年別の分析
 - 4.1. 日本語日本文学科
 - 4.2. 英語英文科
 - 4.3. 音楽科
 - 4.4. 保育科
 - 4.5. 一年生と二年生
 5. 結論
- 補論：本報告書で用いた統計用語について
付表：質問票と解答用紙
-

1. はじめに

2012年2月と3月、常葉学園短期大学学生委員会は、学校生活に対する在学生の満足度に影響する諸要因を分析するために、アンケート調査を行った。この報告書は、その結果について分析し、考察を加えたものである。

毎年、本学は、本学学生の学園生活に対する満足度を把握するために学生生活実態調査を

行ってきた。調査項目は、入学理由、通学手段、施設・設備、サークル、授業外での教職員とのコミュニケーション、アルバイトの実態などについて尋ねるものである。個別の授業に対してはこれと別の調査があり、項目に含まれていない。

従来調査は、個々の質問項目に対する問題点を把握できたものの、それが学園生活の一般的な満足度に占めている程度を理解することが難しかった。例えば、例年の調査では、食堂に関して詳細に尋ねていた。しかしながら、そこで多くの問題点が指摘されても、食堂の改善が一般的な満足度に影響する割合が低ければ、すぐさま対応すべき懸案事項とはみなせないだろう。このように、従来調査では各調査項目の重みを知ることができなかつたため、上のような例での判断が難しかった。本学のリソースを適切に配分するための基本的な情報が欠けていたのである。

今回の2011年度の調査はその点を改善した。学園生活全般に対する満足度に対して、学園生活を構成するさまざまな要因がどの程度寄与しているのかを測ることができるよう、質問項目を各要因の満足度を尋ねるものに変え、尺度を5段階のものに設計し直した。こうして、学園生活全般に対する満足度を従属変数に、諸要因を独立変数とした重回帰分析を施すことが可能となった。この操作によって、総合的な満足度に対する個々の項目の重要度と優先順位を知ることができる。ただし、実際の調査には重回帰分析に適さない項目も一部含まれている。それらについてはこの報告書においては検討しない。

報告書の構成は以下のとおりである。第2章で調査の概要について述べる。第3章では各項目別の満足度の平均と標準偏差、重回帰分析の結果を示す。第4章では、学科または学年別に考察を加える。第5章では、全体をまとめて、学校運営に対する示唆を記す。補論では、統計用語に慣れない読者のために簡単な解説を加えた。

2. 調査の概要

調査は全在生を对象に、2012年2月14日と3月6日に行われた。2月14日に本科二年生と専攻科生に対して、3月6日に本科一年生に実施した。在籍者数812人（本科738生・専攻科生75人）中、有効回答数は683（うち専攻科生が3名）である。学生生活アンケートの質問用紙と解答用紙は付表とした。

調査項目は大きく三つに分けられる。

第一に、回答者の属性について尋ねるものである。所属する科と学年について、項目0aと0bにおいて尋ねた。

第二に、短大生活に対する総合的な満足度と、それに影響すると推測される個別の項目の満足度を尋ねるものである。項目2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 11, 13, 14, 15, 18, 19, 21, 23, 27, 28がこれらに該当する。選択肢はすべて5段階の尺度となっており、各項目は重回帰分析に変数として投入される。なお、平均値と相関係数を算出する際には、満足度の高さの数値の高さが連動するよう、尺度をひっくり返している。

第三に、入学理由、サークルへの所属、学食の改善点、通学時間や交通手段、私生活上の悩み、アルバイトの時間と業種など、学生指導上把握しておきたい項目である。項目1, 10, 12, 16, 17, 20, 22, 24, 25, 26, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38が該当する。これらについては、本報告書では分析の対象としない。

ただし、入学理由を尋ねた項目1に関しては、回答中の選択肢「第一志望の大学に不合格

だったから」のみを取り出してダミー変数化し、独立変数として分析に加えた。不本意入学が満足度に影響すると予想されるからである。

3. 総合的な満足度に影響する要因

3.1. 項目別満足度の平均値

本章では、短大生活に対する総合的な満足度に対して、どのような要因がどの程度影響しているかどうかを分析する。

最初に、各項目の満足度の平均値と標準偏差を表1に示した。表1には、学科別・学年別のデータも添えた。(なお専攻科生3人のデータは対応する本科の二年生に加えた)。

平均値は1から5までの幅の値を取り、値が高いほど「満足度」が高いことを表している。

全体では、ほぼすべての項目で、不満でも満足でもない「どちらともいえない」を表す3.0以上の数値となっている。したがって、各項目について、学生の満足が大きいことがわかる。総合満足度も、3.99と高く、良好な数値と言える。

標準偏差も5項目を除いて1以下であり、満足または不満足のパラつきは小さい。標準偏差が1を超える項目に、事務員の対応、食堂、売店、通学時間と手段がある。いずれも、平均値が3.0を下回らないものの、他項目に比べて満足度は低い。学生によって評価の分かれる項目となっていることがわかる。

それでは、上に挙げた各項目のうち、総合満足度にもっとも影響する項目はなんだろうか？また、それはどの程度影響するのだろうか？

表1 項目別満足度の平均値(ave.)と標準偏差(S.D.) [5段階評価]

	全体		日文		英文		音楽		保育		一年		二年	
	ave.	S.D.	ave.	S.D.	ave.	S.D.	ave.	S.D.	ave.	S.D.	ave.	S.D.	ave.	S.D.
(2)授業満足度	4.12	0.81	4.01	0.82	3.86	0.76	4.03	0.96	4.22	0.78	4.00	0.86	4.25	0.74
(3)成績満足度	3.81	0.91	4.00	0.73	3.85	0.79	3.74	0.94	3.77	0.95	3.66	0.91	3.97	0.87
(4)教員対応満足度	4.14	0.77	4.20	0.70	4.25	0.78	4.14	0.84	4.11	0.77	4.01	0.81	4.29	0.70
(5)事務員対応満足度	3.51	1.09	3.22	1.18	3.46	1.13	3.45	1.15	3.60	1.03	3.43	1.07	3.59	1.10
(6)進路支援室対応満足度	3.96	0.88	3.71	0.84	4.27	0.78	3.59	0.87	4.00	0.88	3.74	0.81	4.19	0.90
(7)教員進路支援満足度	4.02	0.83	3.77	0.78	4.16	0.85	3.86	0.89	4.07	0.81	3.84	0.82	4.21	0.80
(8)友人満足度	4.54	0.74	4.35	0.74	4.58	0.76	4.17	0.93	4.64	0.67	4.45	0.78	4.64	0.68
(9)先輩後輩満足度	3.57	0.91	3.37	0.91	3.48	0.79	3.90	1.14	3.58	0.87	3.55	0.91	3.59	0.91
(11)サークル満足度	3.30	0.98	3.36	1.12	3.20	0.94	3.28	0.91	3.32	0.95	3.22	0.98	3.39	0.96
(13)学園祭満足度	3.97	0.89	3.66	0.91	3.80	0.87	3.48	1.04	4.17	0.79	3.88	0.91	4.07	0.86
(14)行事満足度	3.46	0.94	3.20	0.90	3.41	0.91	2.94	0.95	3.63	0.90	3.50	0.90	3.41	0.97
(15)食堂満足度	3.13	1.12	3.05	0.94	3.09	1.23	3.13	1.08	3.16	1.13	2.94	1.10	3.35	1.10
(18)施設設備満足度	3.67	0.91	3.64	0.86	3.68	0.80	3.23	1.05	3.75	0.90	3.58	0.93	3.77	0.88
(19)売店満足度	3.32	1.06	3.38	0.95	3.17	1.17	3.17	1.01	3.36	1.06	3.20	1.04	3.45	1.07
(21)通学時間満足度	3.08	1.39	3.01	1.32	2.84	1.40	2.99	1.36	3.17	1.39	3.04	1.37	3.13	1.40
(23)通学手段満足度	3.21	1.33	3.20	1.30	3.12	1.28	3.14	1.33	3.24	1.35	3.09	1.35	3.34	1.31
(27)短大外満足度	3.95	0.87	3.82	0.85	3.99	0.83	3.62	1.13	4.03	0.82	3.81	0.91	4.11	0.80
(28)総合満足度	3.99	0.91	3.98	0.84	3.90	0.90	3.59	1.07	4.08	0.88	3.77	0.94	4.22	0.81
		N=683		N=99		N=100		N=69		N=412		N=355		N=328

3.2. 総合的な満足度と関連する要因のスクリーニング

上の疑問を解明するために、総合満足度を従属変数にし、表1に挙げた他の項目を独立変数として重回帰分析を行った。分析には、ソフトウェアにはJMP7を用い、効果てこ比を手法として要因のスクリーニングを行った。結果を表2に示した。

表2の中で、モデル1から3までは全学生をサンプルとしたものである。表1と同じ項目を従属変数としたモデルがモデル1である。それをベースとして、モデル2は1に所属学科の影響を考慮したもの、モデル3が学年の影響を考慮したものである。これらの他に、学科別・学年別のモデルも添えた。

表2 総合満足度に影響する要因の分析

	モデル1 (N=658)		モデル2 (N=658)		モデル3 (N=658)		日文 (N=95)		英文 (N=95)		音楽 (N=68)		保育 (N=398)		一年生 (N=340)		二年生 (N=318)		
	標準β	標準β	標準β	標準β	標準β	標準β	標準β	標準β	標準β	標準β	標準β	標準β	標準β	標準β	標準β	標準β	標準β	標準β	
(1) 不本意入学ダミー	-0.037	-0.033	-0.041	-0.080	-0.031	0.002	0.002	-0.030	-0.025	-0.097	*								
(2) 授業満足度	0.292	**	0.295	**	0.287	**	0.215	0.240	**	0.290	**	0.124	**	0.281	**				
(3) 成績満足度	0.091	**	0.083	**	0.082	*	0.178	0.078	*	0.121	**	0.046							
(4) 教員対応満足度	0.061		0.059		0.059		0.138	0.034		0.032		0.103							
(5) 事務員対応満足度	-0.020		-0.015		-0.017		-0.068	-0.025		-0.006		-0.084							
(6) 進路支援室対応満足度	0.019		0.026		0.002		-0.110	0.023		-0.006		-0.005							
(7) 教員進路支援満足度	0.006		0.006		-0.002		0.085	0.042		-0.022		0.029							
(8) 友人満足度	0.188	**	0.188	**	0.183	**	0.197	0.155	**	0.151	**	0.254	**						
(9) 先輩後輩満足度	-0.015		-0.002		-0.008		-0.004	-0.002		0.010		-0.012							
(11) サークル満足度	0.032		0.023		0.029		0.076	0.010		-0.048		0.122	**						
(13) 学園祭満足度	0.031		0.038		0.023		-0.010	0.042		0.022		0.054							
(14) 行事満足度	0.060		0.047		0.084	*	0.048	0.088		0.026		0.145	**						
(15) 食堂満足度	0.051		0.058		0.038		0.149	0.110	*	0.096		-0.015							
(18) 施設設備満足度	0.121	**	0.115	**	0.125	**	0.107	0.089	*	0.189	**	0.046							
(19) 売店満足度	-0.057		-0.059		-0.055		-0.175	-0.098	*	-0.035		-0.083							
(21) 通学時間満足度	0.091	*	0.089	*	0.094	*	0.165	0.040		0.077		0.116							
(23) 通学手段満足度	0.030		0.033		0.025		-0.058	0.065		0.037		-0.004							
(27) 短大外満足度	0.232	**	0.229	**	0.225	**	0.107	0.250	**	0.252	**	0.174	**						
(0a) 日文ダミー			-0.343																
(0a) 英文ダミー			-0.284																
(0a) 音楽ダミー			-0.226																
(0a) 保育ダミー			-0.418																
(0b) 本ダミー			0.100	**								0.141	**						
自由度調整済みR ² 値	0.543	**	0.546	**	0.551	**	0.669	**	0.546	**	0.580	**	0.536	**	0.555	**	0.493	**	

*:p<.05, **:p<.01

モデル1から3までによって次のことが理解できる。

それぞれのモデルの自由度調整済 R^2 値は0.5以上でかつ有意である。それぞれのモデルのあてはまり具合は、比較的良好だと言えるだろう。

第一に相関の高い要因は、授業に対する満足度である（項目2）。総合的な満足度の29%前後は、この項目との関係で説明できる。すなわち、授業評価を5段階中1段階上昇させることができれば、本学に対する総合的な満足度が30%ほど改善されるということである。

第二に相関の高い要因は、短大外の生活における満足度である（項目27）。総合的な満足度の23%程度は、この項目との関連で説明できる。すなわち、短大外生活の満足度が5段階中1段階上昇すると、20%強総合的な満足度が上昇するということである。

第三に相関の高い要因は、友人関係に関する満足度である（項目8）。総合的な満足度の18%強が、この項目との関連で説明できる。すなわち、短大における友人関係の満足度が5段階中1段階上昇すると、20%弱総合的な満足度が上昇するということである。

第四に相関の高い要因は、教育施設に関する満足度である（項目18）。総合的な満足度の12%前後が、この項目との関連で説明できる。すなわち、施設に対する満足度が5段階中1段階上昇すると、10%強総合的な満足度が上昇するということである。

この他に、相関の程度は一割を切るものの統計的に有意である要因として、成績に対する満足度（項目3）と通学時間に対する満足度（項目21）が挙げられる。

モデル2からわかるように、特定の学科への所属は有意ではなく、総合的な満足度と相関しない。一方で、モデル3からは、一年生であることが1割程度満足度を低めることがわかる。また、モデル3では、学校行事に対する満足度が、相関の程度が1割を切る程度ながら有意となっている。

一方で、総合満足度との関連が予想されながら、有意ではなかった項目に次のようなものがある。不本意入学であること、授業外での教職員の対応、進路支援室や教員による進路支援、先輩後輩関係、サークル、学園祭、食堂・売店、通学手段である。これらの改善に努めても、総合的な満足度は高まらないことが示された。

4. 学科・学年別の分析と考察

本学入試は学科別に行われており、入学後の学生の指導のほとんども学科別に行われており、学科による学生の満足度の違いが大きいと予想される。また、表2のモデル3では、学年の影響も示された。したがって、以下では表2で示した学科別・学年別にモデルについて検討を加える。

4.1. 日本語日本文学科

表2の「日文」の列を参照する。総合的な満足度の54%は、授業に対する満足度で説明できる。次に有意なものが、友人関係で、2割弱の相関を示す。売店も有意ながら、相関を示す値はマイナスの値をとっている。

日本語日本文学科に特徴的なことは、授業との相関が大きく、学外での生活との相関がないことである。授業の質を高めるだけで、短大生活全般の満足度は大きく改善されるだろう。しかしながら、表1の日文の列を見ると、そもそも授業に対する満足度の平均値は高い。これ以上授業の満足度を高めようとするならば、どのような点に注意すればよいのか、さらな

る調査が必要だと思われる。

一方で、売店に対する不満が高いと、なぜ総合的な満足度が高まるのかはよくわからない。その因果関係を推測すると、総合的な満足度の高い学生の多くが、売店を不満とする回答をしたということだろう。

4.2. 英語英文科

表2の「英文」の列を参照する。総合的な満足度の36%は、友人関係に対する満足度で説明できる。次に、授業に対する満足度がその29%を説明する。

英語英文科に特徴的なことは、友人関係との相関がもっとも大きく、次に授業との相関となっていることである。日文科と同様に、学外生活との相関は現れていない。

学校が友人関係のコントロールをすることは難しい。したがって、授業の改善が総合満足度を上昇させるのに容易な方法となる。しかしながら、表1を見ると、他科より満足度が低いとはいえ、それでも英文科の授業に対する満足度は良好である。どのような改善が可能なのか検討が必要だろう。

4.3. 音楽科

表2の「音楽」の列を参照する。音楽科の項はサンプル数が69と小さいことに留意が必要である。総合的な満足度の34%は、学外の生活が説明する。続いて28%程度の相関で、先輩後輩関係・食堂・施設設備の三つが並んでいる。

音楽科に特徴的なことは、授業との相関が無いこと、学外生活との相関が大きいこと、他の学科には見られない先輩後輩関係の相関が見られること、である。

概して、学科として対処できることは少ない。学校が学外の生活を解決することは困難である。また、先輩後輩関係に科が干渉することも容易ではないだろう。ただし、総合満足度と相関する点において、学外生活の満足要因とは音楽に関係することだと推定できる。したがって、その内容によっては、学科または学校で対応できる可能性がある。

施設については楽器の練習場所が少ないことが影響していると見られる。しかし、短期的に解決できる問題ではないだろう。

一方、値がマイナスとなる食堂に関しては、それへの満足がなぜ総合的な満足度と反比例するのかはよくわからない。その因果関係を推測すると、総合的な満足度の高い学生の多くが、食堂を不満とする回答をしたということだろう。

4.4. 保育科

表2の「保育」の列を参照する。学校に対する総合的な満足度の25%を学外の生活が、24%を授業が、16%を友人関係が説明する。また、学年が14%程度の相関を示す（他の三科については、学年は有意ではなかったため、モデルに加えていない）。さらに10%前後の相関を示すものに、食堂・施設・成績・売店がある。

保育科に特徴的なことは、学年や成績の相関がみられること、食堂・売店ほか施設への不満が相関していること、である。

上に挙げた要因のうち、学科として対処でき、かつ効果が大きいものは授業の改善のみである。しかしながら、表1からは授業満足度は四科の中でもっとも高いことがわかる。どの

ような改善が可能なのか、さらなる検証が必要だろう。

売店の値がマイナスとなる理由については、日文科の節で示したパターンと同様の推測が成り立つと思われる。

4.5. 一年生と二年生

表2の一年生と二年生の列を参照する。一年生と二年生の結果の違いは二通りの解釈が可能である。一つは、所属年数によって学校生活に対する評価が変化するというものである。もう一つは、一年生と二年生の間に世代の差があり、年齢によって同じ評価尺度を共有していないというものである。後者の場合には学年が上がるにつれての変化ではないので、二つの差異を解釈することを控えなくてはならない。

以下では、とりあえず前者の「所属年数によって評価が変化する」と仮定して解釈をすすめる。この場合のみ、学校としての改善の可能性があるからである。

総合的な満足にとって、重要な要因が授業であることは一年生も二年生も変わらない。これに対して、学年があがると重要性が減る要因があり、それは学外の生活・施設・成績の三つである。一方で、学年があがると重要性が増す要因があり、それは不本意入学・友人関係・サークル・学園祭以外の学校行事の四つである。

なぜ不本意入学が二年生になって相関を示すのだろうか。絶対値がマイナスであることを見ると、「不本意に入学したが意外と学校生活が良かったことを卒業時に認識した」ケースか「第一志望で入学したのに、期待したほど学校生活を満足できなかったことを卒業時に認識した」ケースがあったと推測される。ただし、相関は一割弱で、大きな割合を占めていない。

二年になると、なぜサークルと学園祭以外の学校行事に対する相関が出現するのかはよくわからない。友人関係に対する満足度との相関が二年時に高まるのは、卒業を控えた時期に調査した影響だと考えられる。表1からは、二年生の方が一年生より友人関係を肯定的に評価していることがわかる。

一年時には見られた施設・成績に対する相関が二年時に消滅する理由は、単純に本学への所属年数を重ねた結果としての「慣れ」のためだろう。一年時の学外の生活に対する相関が二年時のそれより高いことは、調査時期が一年生の就職活動の開始時期と重なっているからという理由が考えられる。

5. 結論

結論として、ここでは上の分析結果を簡単にまとめ、さらに考察を加えることにする。

第一に、学校生活全般の満足度ともっとも関係の深い要因は、授業である。したがって全学的には授業の改善が重要な課題となる。しかしながら、いったい何を改善すればよいのか——個々の授業なのか、それともカリキュラムなのか——については明らかではない。また、授業に対する満足度はそもそも高い。果たして改善の余地があるのかについても、検討が必要だろう。

すでに満足度は高い状態にあるため、さらに満足度を改善するために時間・人員・費用を投入しても、評価を改善する効果は小さいと予想される。経済学でいう「限界費用」が高い。すなわち「収穫逡減の法則」が働く可能性が高いのである。

第二に、学外での生活や友人関係が、総合的な満足度に影響する。これらは、学校として対応できることではない。可能なことがあるとすれば、学内における人間関係の観察と、より気軽な相談体制の整備だろう。重ねて付け加えれば、これらの対応は問題の本質的な改善とならず、学校評価を高める目的に引き合うコストとならない可能性が高い。

第三に、施設に対する満足度が、総合的な評価に関連している。その詳細は不明なため、新校舎建設に際して、事前に学生の要望を調査し汲んでおく必要があるだろう。

他に、学科によって重要な要因がさまざまであった。日文科は授業、英文科は友人関係、音楽科は学外生活、保育科は学年、これらの影響が特徴的であった。ほぼすべての場合で、学校としての対応が難しいと考えられる。

以上の結果に関して、学校運営上の示唆について検討を加える。

全体として学生の本学に対する満足度は高い。また、それとの相関が高い項目について改善できることはあまり多くない。この二つのことから、在学生の満足度をさらに向上させるために、本学の限られた人的資源を投入しても、コストが効果を上回る可能性が高い。そのメリットは大きくないと予想されるのである。

むしろ「これほど満足度が高いのに、なぜ保育科以外の三科が定員割れを続けているのか」を問うのが、正しい観点と言えよう。この問いの答えは二つ考えられる。一つは本学の魅力を広報活動において十分アピールできていない可能性である。これに対しては、広報戦略を練り直すことが課題となる。もう一つは、本学学生が本学に求めるものと、他の同年代の層の求めるものが異なっている可能性である。この場合、本学のオープンキャンパスに参加または入試を受験しながら入学しなかった層、さらには本学からの退学者などに評価を尋ねることが必要だろう。いずれにせよ、進学先に本学以外の短大や専門学校を選んだ層・あるいはこれから選ぶとする層を中心とした、“常葉短大に在学しなかった・あるいはしようとしなかった層”をターゲットとした対応が、喫緊に求められていることであるといえよう。

補論：本報告書で用いた統計用語について

・標準偏差

standard deviation。統計値の散らばり具合を表す数値。平均を中心にして、標準偏差×1のプラスマイナスの絶対値の間に68.27%が、標準偏差×2のプラスマイナスの絶対値の間に95.47%の統計値が入る。値が大きいとばらついており、小さいと平均中心にまとまっていると言える。

・重回帰分析

回帰分析とは、従属変数 y と独立変数 x の分布に対して、 $y=ax+b$ の式を当てはめ、傾き a の値を明らかにすることで、従属変数が説明変数によってどれくらい変化するのかを説明する手法である。重回帰分析とは、一つの従属変数 y に対して複数の独立変数 ($x_1, x_2, x_3 \dots$) を投入する手法である。

傾き a は -1 から 1 までの値をとり、絶対値が 1 に近づくほど相関が高く、 0 に近づくほど相関が低い。重回帰分析において、傾き a は標準 β で表示される。

・相関

二つのデータが、ある程度の規則性をもって同時に変化していく性質をいう。一般に相関係数によって変化率が表示されるが、本調査においては表2における標準 β すなわち標

準化偏回帰係数とその値を示している。例えば、「短大外の生活」の満足度が5段階中1段階あがるとすると、約0.3の傾きをもつ直線に従って満足度が0.3上昇することを意味する。

相関からの因果関係の解釈には三パターンある。AとBの間に相関があるというとき、一つ目はAが原因でBが結果というケース、二つ目はBが原因でAが結果というケース、三つ目は計測されていない第三項Cが原因となってAとBともに影響されるというケース、この三つである。

本報告書では、通常、諸要因を原因とし、総合的な満足度を結果とする解釈をとっている。しかしながら、短大外の満足度と総合満足度と相関することからは、「そもそも不満を持ちにくい性格」が第三項の原因としてあり、それぞれに影響しているという可能性も排除できない。

• **有意差・有意である**

確率的に偶然とは考えにくく、意味があることを意味する統計用語。詳細は省くが、100回調査して同様の結果となる（正確には帰無仮説との差が出る）ことが95%ある、または99%あることを意味すると考えればよい。95%の場合は「5%水準で有意」、99%の場合は「1%水準で有意」といい、表2では*（アステリスク）の数で表示した。

本報告書において「有意」とは、真剣に検討すべき項目は*の付されているものだけということである。そうでないものは検討する必要がないと考えていいだろう。

（付記：この報告書の紀要掲載版は、本学学長宛に2012年3月に提出された学内文書を基にしている。その要約版が同年5月の本学教授会において専任教員と事務員役職者らに配布され、内容についての説明も施された。この報告に基づき、第32回常葉学園短期大学教職員研修会（同年9月開催）の内容が企画され、対策が検討された。）

2011 年度学生生活アンケート

私たち短大教職員は、皆さんの学生生活をより改善できるように常に願っています。学生生活の改善に役立てるために、日々皆さんが感じていること、考えていることを伝えていただきたく、アンケートへのご協力をお願いします。

<記入上の注意事項>

- すべての回答を、別紙のマークシートに記入してください。
- 回答の方法について、設問ごとに指示内容が異なりますので、よく読んで回答してください。

【所属(学科と学年)について】

No.0a あなたの所属をマークしてください。

1. 日文 2. 英文 3. 音楽 4. 保育 5. 国文専攻 6. 音楽専攻 7. 保育専攻

No.0b あなたの学年をマークしてください。

1. 本科1年 2. 本科2年 3. 専攻科1年 4. 専攻科2年

【本学に入学した理由・目的】

No.1abc あなたが本学への入学を選んだ理由のうち、重視した順に3つお答えください。

1. 学科内容が自分の希望に合っているから 2. 就職に有利だから 3. 親や先生から勧められたから 4. 通学に便利だから
5. 希望の免許や資格が取得できるから 6. 第一希望の大学に不合格だったから 7. 友人が多く受験したから
8. 名前の知られた短大だから 9. その他 (9にマークした上で、自由記述欄 No.1_9 にも具体的な内容を記入してください)

(No.1a に最も重視したものを、No.1b に2番目を、No.1c に3番目をマークする。)

【短大生活の満足度】

No.2 あなたは、短大での授業にどのくらい満足していますか。

1. 満足している 2. どちらかというと満足している 3. どちらともいえない 4. どちらかというと不満だ 5. 不満だ

No.3 あなたは、短大での自分の成績にどのくらい納得していますか。

1. 納得している 2. どちらかというと納得している 3. どちらともいえない 4. どちらかというと納得していない 5. 納得していない

No.4 あなたにとって、教員の授業の外での対応はどのくらい適切ですか。

1. 適切だ 2. どちらかというと適切だ 3. どちらともいえない 4. どちらかというと不適切だ 5. 不適切だ

No.5 あなたにとって、事務職員の対応はどのくらい適切ですか。

1. 適切だ 2. どちらかというと適切だ 3. どちらともいえない 4. どちらかというと不適切だ 5. 不適切だ

No.6 あなたは、進路支援室の支援体制に関してどのくらい満足していますか。

1. 満足している 2. どちらかというと満足している 3. どちらともいえない 4. どちらかというと不満だ 5. 不満だ

No.7 あなたは、教員の進路に関するサポートや助言に関してどのくらい満足していますか。

1. 満足している 2. どちらかというと満足している 3. どちらともいえない 4. どちらかというと不満だ 5. 不満だ

No.8 あなたは、短大のクラスや同学年の友人関係にどのくらい満足していますか。

1. 満足している 2. どちらかというと満足している 3. どちらともいえない 4. どちらかというと不満だ 5. 不満だ

No.9 あなたは、短大の先輩・後輩関係にどのくらい満足していますか。

1. 満足している 2. どちらかという満足している 3. どちらともいえない 4. どちらかという不満だ 5. 不満だ

No.10 あなたは、短大内のサークル・クラブ・同好会に所属していますか。

1. 所属している 2. 所属していない

No.11 あなたは、短大内のサークル・クラブ・同好会の活動内容にどのくらい満足していますか。
(サークル等に所属していない人は、外から見ての印象で答えてください)

1. 満足している 2. どちらかという満足している 3. どちらともいえない 4. どちらかという不満だ 5. 不満だ

No.12 あなたは、短大のクラブ・サークル活動の人間関係にどのくらい満足していますか。

1. 満足している 2. どちらかという満足している 3. どちらともいえない 4. どちらかという不満だ 5. 不満だ
6. サークル・クラブ・同好会等に所属していないのでわからない

No.13 あなたは、学園祭についてどのくらい満足していますか。

1. 満足している 2. どちらかという満足している 3. どちらともいえない 4. どちらかという不満だ 5. 不満だ

No.14 あなたは、学生大会を含むその他の行事にどのくらい満足していますか。

1. 満足している 2. どちらかという満足している 3. どちらともいえない 4. どちらかという不満だ 5. 不満だ

【短大の設備、施設の満足度】

No.15 あなたは、本学の食堂にどのくらい満足していますか。

1. 満足している 2. どちらかという満足している 3. どちらともいえない 4. どちらかという不満だ 5. 不満だ

No.16 本学の食堂について、改善してほしい点があるとすれば、どのような点ですか。(最も重要なものを1つお答えください。)

1. 営業時間の長さ 2. メニューの選択肢 3. 食事のスペース 4. エアコン・空調 5. 味
6. 改善してほしい点は特にない 7. その他 (7.にマークした上で、自由記述欄 **No.16.7** にも具体的な内容を記入してください)

No.17 短大での昼食時、あなたが最も利用する場所(落ち着く居場所)はどこになりますか。

1. 食堂 2. シトラス2階 3. 教室(食事可能な教室) 4. 各科の共同研究室 5. 教員の研究室
6. 学生相談室 7. 野外の自由空間 8. 特に固定した場所はない
9. その他 (9.にマークした上で、自由記述欄 **No.17.7** にも具体的な内容を記入してください)

No.18 あなたは、本学の教育施設にどのくらい満足していますか。

1. 満足している 2. どちらかという満足している 3. どちらともいえない 4. どちらかという不満だ 5. 不満だ

No.19 あなたは、本学の学内売店(食堂内に設置)にどのくらい満足していますか。

1. 満足している 2. どちらかという満足している 3. どちらともいえない 4. どちらかという不満だ 5. 不満だ

【通学手段のこと】

No.20 あなたの通学時間(通学にかかる所要時間)はどのくらいですか。

1. 15分未満 2. 15分以上30分未満 3. 30分以上1時間未満 4. 1時間以上1時間30分未満
5. 1時間30分以上2時間未満 6. 2時間以上

No.21 あなたは、通学時間（通学にかかる所要時間）にどのくらい満足していますか。

1. 満足している 2. どちらかというと満足している 3. どちらともいえない 4. どちらかというと不満だ 5. 不満だ

No.22 あなたの通学手段は何ですか。

1. 徒歩のみ 2. 自転車のみ 3. バイクのみ 4. 公共交通（電車・バス）＋徒歩 5. 公共交通（電車・バス）＋自転車
6. 公共交通（電車・バス）＋バイク 7. 自家用車等での送迎

No.23 あなたは、通学手段にどのくらい満足していますか。

1. 満足している 2. どちらかというと満足している 3. どちらともいえない 4. どちらかというと不満だ 5. 不満だ

【心配事、悩み事について】

No.24abc あなたが抱えている悩みのうち、あなたにとって重要な順に3つお答えください。

1. 勉学について 2. 人間関係について 3. 自分の性格について 4. 自分の健康問題について
5. 家族の健康問題について 6. 経済的問題について 7. 恋愛について 8. 家族との関係について
9. 進路（就職）について 10. 悩みは特にない 11. その他（11.にマークした上で、自由記述欄 No.24.11）にも具体的な内容を記入してください

（No.24a に最も重要なものを、No.24b に2番目を、No.24c に3番目をマークする。）

No.25 学生相談室に行った、もしくは行こうと思ったことがありますか。

1. すでに行ったことがある 2. 行こうと思ったが、現時点ではまだ利用していない 3. 行こうと思ったことがない

No.26 No.25で「2. 行こうと思ったが、現時点ではまだ利用していない」と回答した方に伺います。
行こうと思って、まだ利用していない理由は何ですか。

1. 行こうかどうか迷っているうちにその問題が解決したため 2. 相談室の前に来たが、入れなかったため
3. 別の相談者が利用中だったため 4. 相談の申し込み方法がわからなかったため
5. 相談室の開室時間と自分の空き時間が合わなかったため
6. その他（6.にマークした上で、自由記述欄 No.26.6）にも具体的な内容を記入してください

No.27 あなたは、短大生活とは別のことで、日常生活にどのくらい満足していますか。

1. 満足している 2. どちらかというと満足している 3. どちらともいえない 4. どちらかというと不満だ 5. 不満だ

【総合的な満足度】

No.28 総合的にみて、あなたは短大生活全体にどのくらい満足していますか。

1. 満足している 2. どちらかというと満足している 3. どちらともいえない 4. どちらかというと不満だ 5. 不満だ

No.29 短大への要望がありましたら、自由記述欄に記入してください。

自由記述欄 No.29 に、具体的な内容を記入してください

【お金についてのこと】

No.30 あなたが、自分のために1ヶ月で最もお金を使っているのは何ですか

1. 勉強（教科書代も含む） 2. 洋服・化粧品 3. 交際費 4. 飲食費 5. 携帯電話などを含む通信費
6. 趣味 7. その他（7.にマークした上で、自由記述欄 No.30.7）にも具体的な内容を記入してください

学園生活に対する学生の満足度に影響する要因：2011年度常葉学園短期大学学生生活実態調査の分析

No.31 あなたは今年度4月以降、アルバイトをしていますか。

1. アルバイトをしている(今年度4月以降従事したことがあれば、こちらにマーク) 2. アルバイトをしていない

No.32abc あなたがアルバイトをする理由について、あなたにとって重要な順に3つお答えください。

1. 学費(教科書代・授業料を含む)を得るため 2. 生活費を得るため 3. 洋服・化粧品代を得るため
4. 趣味娯楽費を得るため 5. 携帯電話等通信費を得るため 6. 社会経験のため 7. 就職活動に役立てるため
8. 友人を得るため 9. そのアルバイト先で働くことが楽しいから 10. アルバイトをしたことがないのでわからない
11. その他(自由記述欄 **No.32_11** に、具体的な内容を記入してください)

(**No.32a** に最も重要なものを、**No.32b** に2番目を、**No.32c** に3番目をマークする。)

No.33 どこでアルバイトをしていますか。複数ある場合は主なものを1つお答えください。

1. スーパー/コンビニエンスストア 2. (スーパー/コンビニエンスストア以外の)販売業・小売業
3. 飲食店(ファミリーレストラン・ファーストフード店等) 4. 酒類飲食店(居酒屋等)
5. 教育関係(塾講師/家庭教師/インストラクター等) 6. 派遣会社に登録しての派遣業務
7. その他(自由記述欄 **No.33.7** に、具体的な内容を記入してください)

No.34 今年度は、1ヶ月当たりどのくらいのアルバイト収入がありましたか(1年間の合計額をアルバイトに従事した月数で割った平均金額でお答えください)。

1. 1万円未満 2. 1万円以上3万円未満 3. 3万円以上5万円未満 4. 5万円以上10万円未満
5. 10万円以上15万円未満 6. 15万円以上20万円未満 7. 20万円以上 8. 収入なし(アルバイトをしなかった)

No.35 授業実施期間中のアルバイトは、週当たり何時間行っていますか。(平日(月～金)について、合計時間数をお答えください)。

1. 5時間未満 2. 5時間以上15時間未満 3. 15時間以上30時間未満 4. 30時間以上
5. 今年度、アルバイトをしなかったので答えられない

No.36 授業実施期間中のアルバイトは、どの時間帯に行っていますか。(平日(月～金)について、平均的な時間帯をお答えください)。

1. 授業始業前の早朝の時間帯(9時まで) 2. 午前(9時以降12時まで) 3. 午後(12時から16時まで)
4. 16時(授業終了後)から20時まで 5. 20時から深夜0時まで 6. 深夜0時以降
7. 今年度、アルバイトをしなかったので答えられない

No.37 土曜日・日曜日および長期休暇中のアルバイトは、1日に何時間行っていますか。(1日当たりのおよその時間数をお答えください)。

1. 1時間未満 2. 1時間以上3時間未満 3. 3時間以上6時間未満 4. 6時間以上8時間未満
5. 8時間以上 6. 今年度、アルバイトをしなかったので答えられない

No.38 土曜日・日曜日および長期休暇中のアルバイトは、何時から始まりますか。(およその時間帯をお答えください)。

1. 5時から9時までの間に開始 2. 9時から12時までの間に開始 3. 12時から16時までの間に開始
4. 16時から20時までの間に開始 5. 20時から0時までの間に開始 6. 0時から5時までの間に開始
7. 今年度、アルバイトをしなかったので答えられない

ご協力ありがとうございました。

2011年度 学生生活アンケート回答用紙

注意事項

- ①. 折り曲げたり汚したりしないでください。
- ②. 記入・マークはHBの鉛筆・シャープペンを使用してください。
- ③. 訂正は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないでください。
- ④. 一つの質問に対して複数の文字を塗りつぶすと、無効な回答として処理されるので注意してください。

マーク例

濃く塗りつぶす



問題番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
No.0a	○	○	○	○	○	○	○				
No.0b	○	○	○	○							
No.1a	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
No.1b	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
No.1c	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
No.2	○	○	○	○	○						
No.3	○	○	○	○	○						
No.4	○	○	○	○	○						
No.5	○	○	○	○	○						
No.6	○	○	○	○	○						
No.7	○	○	○	○	○						
No.8	○	○	○	○	○						
No.9	○	○	○	○	○						
No.10	○	○									
No.11	○	○	○	○	○						
No.12	○	○	○	○	○	○					
No.13	○	○	○	○	○						
No.14	○	○	○	○	○						
No.15	○	○	○	○	○						
No.16	○	○	○	○	○	○	○				
No.17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
No.18	○	○	○	○	○						
No.19	○	○	○	○	○						

問題番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
No.20	○	○	○	○	○	○					
No.21	○	○	○	○	○						
No.22	○	○	○	○	○	○	○				
No.23	○	○	○	○	○						
No.24a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
No.24b	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
No.24c	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
No.25	○	○	○								
No.26	○	○	○	○	○	○					
No.27	○	○	○	○	○						
No.28	○	○	○	○	○						
(No.29 短大への要望は下の自由記述欄)											
No.30	○	○	○	○	○	○	○				
No.31	○	○									
No.32a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
No.32b	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
No.32c	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
No.33	○	○	○	○	○	○	○				
No.34	○	○	○	○	○	○	○	○			
No.35	○	○	○	○	○						
No.36	○	○	○	○	○	○	○	○			
No.37	○	○	○	○	○	○					
No.38	○	○	○	○	○	○	○				

自由記述欄		
No.1_9	No.26_6	No.29 短大への要望
No.16_7	No.30_7	
No.17_9	No.32_11	
No.24_11	No.33_7	